

☆わたしの意見

社会福祉と

人々の善意

関 外余男

△兵庫県社会福祉協議会会長△



私は、社会福祉の仕事に携って相当長くなります。社会福祉は、人々の心をつなぐ仕事だと思っています。

元来、人の心は、正しく美しい。あえて、古く中国で唱えられた性善説を採らなくとも、私はそう信じます。ただ、人々は、現実には随分矛盾も多く、理想とは隔った社会の環境や制度の中で、懸命に生きて行かなければならぬのであり、また、人は所詮、凡夫であるから、時には、天使の声よりは、悪魔の囁きに耳を傾けたくなる時もあるのですからいつも善意の出し放しというわけには行かぬでしょう。

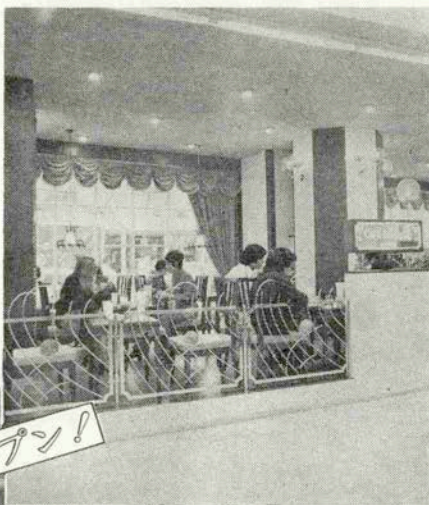
しかし、この善意が人々の心の根底になれば、家庭における家族間の生活は成り立たないし、近隣、社会の共同生活も成り立たないはずであります。殊に、人々の福祉を高める社会福祉事業をささえるものは、この人々の善意であると思います。社会福祉事業推進の基盤は、この人々の善意をいかに高揚するにかかっています。

社会福祉事業に向けられる善意を行動にあらわす場合には、いわゆるボランティア活動という形になる場合が多いと思います。反対給付を求めることなく、富める者はその財を―才能ある者はその力を、心の豊かな者はその心を応分に出し合うこと、そこからボランティア活動が生れるのです。

社会福祉協議会の目的とするところは、住民主体の地区組織活動（コミュニティーオーガニゼーション）であり、言をかれれば、住民福祉の明るい町づくり運動であります。町づくり運動とボランティア活動とは切りはなして考えるわけには行きません。

社会福祉、社会保障を進めることは、福祉国家として最も大切な仕事であることは当然ですが、これを強調するあまりその一切をあげて国家の責任であるとする一部の論議がありますが私共は、これには同調するわけには行きません。社会福祉事業の根底は、民間の事業であります。人々の善意と愛情に支えられる福祉の町づくり運動であります。

カフェ・ド・ベッコ(大丸店)



オープン!



モロゾフセンター街店

くつろぎと、舌つづみの
ひとときを。

モロゾフのティー・サロン。
チョコレート ケーキ プリン
パロア。みんな、モロゾフのオリジ
ナル・メニュー。香り高いコーヒー
紅茶をどうぞ。こころ高鳴るインテ
リア、ゆきとどいたレイアウトなど
しゃれたフイーリングのお店です。
お友だちとごいっしょに、ご家族づ
れでにぎやかにおこしく下さい。

随想三題



ありし日の捨丸さんと春代さん

捨丸さんの瘤(こぶ)

織田 正吉

〈放送作家〉



日本の船の名前には、かならず
△丸▽がつく。だから外国の船員
は日本船を△マルシップ▽と呼ぶ
そうだ。むかしの漫才師の名前に
丸のつくのが多いのは、神戸に入
港する船をまねたのだという説が
ある。おそらくこじつけだろう。

詮策はともかく、神戸は漫才に
縁のふかい土地である。砂川捨丸
が擡頭したのも、横山エンタツが
新しい型の漫才で人気を得たのも

湊川新開地だった。今年になって
から、そのエンタツさん、捨丸さ
んが相ついででなくなった。しゃべ
くり漫才と古典万歳、それぞれの
巨きな存在であった。

捨丸さんに会ったのは、この夏
神戸松竹座の楽屋だった。読売テ
レビに有川さんという若いのに古
典芸能が好きという奇特なディレ
クターがおり、二人で仕事の打合
せにたずねた。その日は出番では
なく、捨丸さんは紺色のレースの
開襟シャツを着ていた。

「漫才のはじまりは三河ですな
あ。むかしは仏教というものがア
(この「ア」というところで尻上
りになるのが砂丸師匠のくせだっ
た) すたれたので、説教におもし
るい話をとりいれた。そんなこと
から出とりますなあ」テレビで砂
丸さんに何をやってもらうか、持

ちネタを洗いに來たので、そんな
話を聞きにきたのではない。が、
新聞記者などがしょっちゅうそれ
を聞くのか、口慣れた様子でまた
しても「漫才のはじまりは……」
となる。われわれがどの何者か
もまったく理解できないらしかつ
た。そばにいた合方の春代さんが
「何をいうとんのかいな、このお
っさんは」と何度もいった。完全
にぼけている。

「(テレビに出てもらって) 大
丈夫でしようか」有川ディレクタ
ーは心配そうだった。「大丈夫で
す」と私は無責任に断言した。例
によって張り扇できまるトリネタ
の△舞込み▽をやってもらった
が、ステージに立つと絶対に間を
はずさないのだから、文字どおり
叩きこんだ芸というものは大変な
ものである。

舞台ではよく神戸の地名が出て
きた。「目くらの乞食がノミを取
ってるちゅう橋があつたなあ」
「そんな橋あつたかいな」「みな
跳ばし(湊橋)」

それから――
「うちの家は九間(ここのま)あ
ります」「嘘つき、四疊半一ト間
やないか」

「裏に山(八間)がある」という
のは住んでいた長田区丸山のこと
か。

左耳のうしろに直径二センチく

らしい瘤があった。ドルシヨックに悩む水田蔵相の天庭にあるのと同じやつである。粉瘤（ふんりゅう）というのだが、私も十何年前、ひざに出来たので医者に取りってもらったことがある。

ひさしの出たおでこ、石垣の螢みたいにいつも奥で光っているかなつぽまなこ、チョビヒゲ、そして、やせて少し猫背の身体。みんなあの飄々とした芸風をささえる大切な肉体の小道具であった。だが、耳の瘤だけは目ざわりでかんとたな手術だから早く取ったらいのにといつも思っていたが、もうその必要もなくなった。

赤いほっぺ

富岡 敬次郎

〈サンTVKKディレクター〉



『赤いほっぺ』——昨年（1997年）の七月から、サンTVで放送されている幼児教育番組である。視聴者は幼児をもっている母親が主体になっているようだ。

内容は幼児の発育、発達していく姿を、幼児をとりまく環境を素直にみつめようといったもので、育児のための技法を説いているわけではない。ともすれば、うっか

り見過ごしがちな『幼児の世界』を素直に、ていねいにみつめ、紹介しようということである。

『幼児の世界』と簡単にいつてのけているが、その世界は複雑、多岐なものである。とても、文字、ことばで表現できるものとは思えない。こうした世界をより忠実に表現できる、一番すぐれた手段はいまのところ、カメラでフィルムにおさめそれらを再現することだろう。

テレビ番組を制作する場合、ニュース番組など客観性の必要な場合をのぞいて、ある程度の演出にもとづいて、登場人物の演技を引さだそうとする。そして場面構成をしてゆく。ところが、こどもを対象にして撮影する場合、演出はまったく効果を生みださない。（『赤いほっぺ』はそうした演出を必要とする番組ではない。）こどもは制作者がのぞむような演技はまったく演じてくれないものだ。

そこでテーマにそった内容のものをカメラでおさめるためには、こどもが本当に行動をおこすまで、辛抱強く待つて撮影するしかない。一時間でも二時間でも、いや半日でも一日でも待つている。気の長い話ではある。しかし、のんびり構えているわけではない。一刻でも早く行動をおこしてくれ、ることを祈るような気持ちで待つて

いる。おかげでこのごろでは、待つことにそれほどの苦痛はない。

昨年の第一回目の放送のときの撮影で、出産シーンの一部を取材したとき産院へ二週間近く、毎日出勤した。その忍耐力にわれながら驚いたものだ。

いろいろな場所で、いろいろなこどもたちを取材していると、いろいろな性格の持主のこどもと出会う。『十人十色』という諺があるが、まさにそのとおり。家庭環境も教育方法もそれぞれ違っているもので、いろいろな性格の持主のこどもが生まれてくるのであろう。このことは喜ばしいことだと思う。地球上に何億の数の人間が存在しているのか、はつきりしたことは知らないが、まったく同じ人間がふたりとない、この事実を実感として知ることができる。性格の違った人間同志がお互を尊重しあって、たすけ合って生きてゆくことはなによりもましてすばらしいことに違いない。

こどもを取材していつも思うことは個性的な人間に育ってほしいということであり、母親に接して思うことは個性のある人間の育つ環境づくりをしてほしいということである。わたしたち『赤いほっぺ』にとりくんでいる仲間はいつても、そう考えながら制作にいきんでいる。

旅と唄と

杜山 悠

〈作家〉



近著「日本の街道」取材旅行の途次出雲国月山富田城での新宮党前跡にて、筆者。

五木の子守唄

九州の球磨川の上流に人吉という町がある。

二万二千石相良氏旧領地で、山紫水明の地といわれたが現代は観光客でごったがえしている。人吉城趾から少し奥に入った温泉宿に泊まり、宿のおばあちゃんから昔ふうの五木の子守唄を教えてもらった。五木村は球磨川の支流五木川の上流にある。

おどろが打死ねば道ばちや埋ける

通る人ごち花あげる

花は何の花つんつん椿

水は天からもらい水

レコードで聞いた節とはまるでちがう。おばあちゃんは勸の悪い私に腹も立てず、くり返しくり返し歌ってくれた。そして、しまいはさすがにあきれて、まあ自

分の好きなように歌えばよい、と、いった。それにしても、このすさまじい文句の子守唄をきいて育った五木村の子どもたちの人生観とは、一体どのようなものであったのだらう。私は人吉から八岳越えに北薩摩の方へ下りながら、おばあちゃんの節回わしを真似てみたが、歌えば歌うほど離れて行き、栗野岳の麓をたどる時分にはすっかり忘れてしまっていた。

安来節と尼子の城

出雲の安来から旧道を伝って月山富田城の跡を訪れた。尼子氏二百万石の居城で、毛利一族との宿命的な抗争の果に滅亡した悲劇の地である。山中鹿介はその尼子の一族で、毛利打倒に生涯を賭けて死んだ。私は尼子氏の内紛で全滅した新宮党（尼子国久）のあとなどこまかく歩きまわり、翌日、松江に投宿した。

早速、昔ふうな安来節が習いたいと宿の番頭にいうと、上手ではありませんがといつて自分で歌ってくれた。これがまたとても難しい。私が真似て歌うと「できましたよ」と手を叩く。おべんちゃらいいなさんな。いえいえ、ようはまっとりますわな。おだてられて一杯のんで、あとで風呂の中で歌っていたら風呂焚きのおっさんが「そこは、こないなふうに歌い

なはるとよろしおます」としづいのどをきかせてくれた。さっきの番頭の節とは大変ちがっていた。

おばこ節と破れ風呂

東北をぐるりと回って、山形県の羽黒山三山の一つに登り、庄内海岸に下り加茂海岸に出た。そこに湯ノ浜とよばれる温泉郷がある。物々しい構えの宿が並んでいる表通りから、ちよっと横丁に入った所に湯治場風の宿のあるのを見付けた。こういう宿屋は、かならずその土地の産物を供膳してくれるはずだ。と、読んだら的是で、山菜料理が山ほど出て来た。若い女中さんもなかなか美形である。ビールを注ぐとお礼だといつて、いきなり秋田おばこ節を歌い出した。「おばこなんぼになるこの年暮せば十と七ツ、ア、オバコデオバコデ」というあのおばこ節ある。美しい声だがビールの方にもよく飲む。飲んで歌って、飲んで「お客さんよく覚えなされたね」と、最後にあいそをいって退った。八ぼんまに覚えられたかな、地下の温泉場に入って「ア、オバコデ、オバコデ」とやっている、と、一陣の潮風が吹きこんで来て湯気を払った。よく見ると海に面した窓ガラスが何と一枚もなく、海と風呂場とが「いけいけ」になっている。

□ある集いその足あと

人形劇団。プツテ



尼崎の児童図書室で

金田 一男（人形劇団プツテ代表者）

私達人形劇団「プツテ」は、青空子供会を母体に、発足当時の精神を引きつぎつつ、私達の人間形成の場としたサークル活動として、現在に至っています。或る時期には、メンバーが、四・五名になったこともありましたが、それでも、公演活動が続けました。現在は、公務員、会社員、学生等十八名で構成していますが、常時、活動している者は、約十三名です。仕事を持っている者が多いので、毎週金曜日六時からの練習には、なかなか全員が揃いません。練習は、芦屋市教育委員会のご好意で青少年センター（芦屋市西山町）の一室で練習しています。

す。ご覧になりませんか？

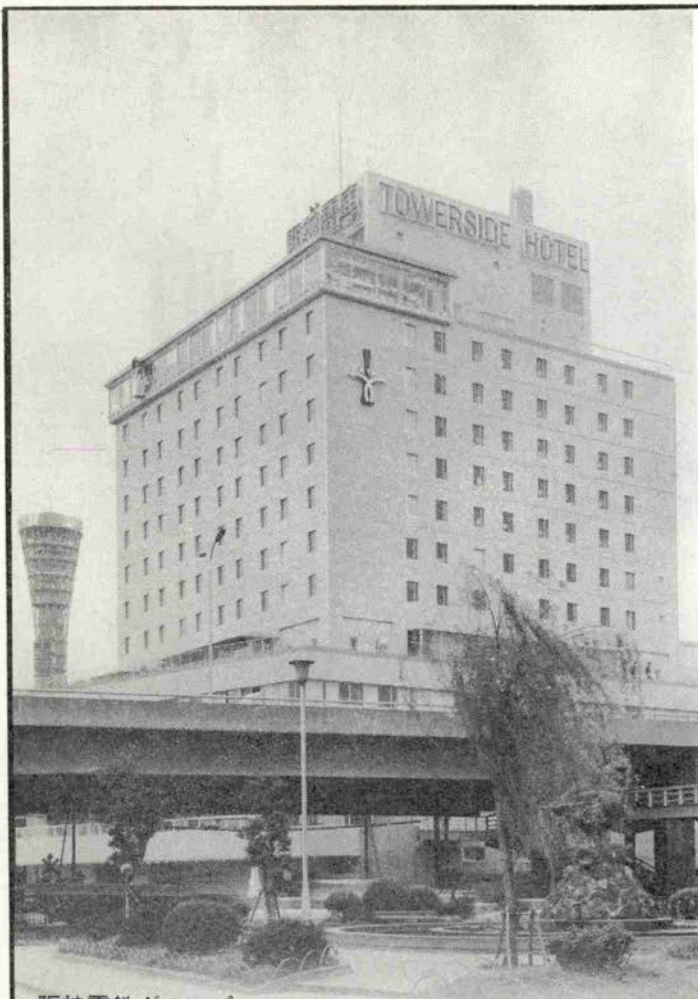
公演は春と秋が多く、秋は文化のシーズンだ、等といながらでかけますので、サークル員の家族の方々はアキレておられると思います。大体、阪神間を中心に兵庫県全域の、養護施設、小学校、子供会、老人ホーム等で公演をします。七年前から、夏季には、全員が揃って、二泊三日或は、三泊四日位の休暇をとって、僻地といわれるところに行きます。子供達が十七・八名というような過疎地帯です。三年後には一年生がいないと、ききました。分校の教室で、全員、ごろ寝をします。窓から星を眺めながら寝るというような風流なことは、都会ではとても出来ません。お星さまとお話をするんだと、いう人もいます。この公演が終りますと、子供達から感想文がたくさんきますので、私達は太騒ぎをしながら読みます。私達の機関誌「羽ばたき」にこの感想文を載せて、子供達に送ります。劇の台本は、私達で考えて作ります。舞台の人形は、油粘土で形や顔を作り、みんな、アーデモナイコーデモナイ、と、ひねりまわります。それをモデルにして、紙粘土や、発泡スチロールや布等で、縫いぐるみ人形やいろいろな人形を作ります。不思議なことに作った人の顔に、そっくりの人

形が出来ます。どういうことでしょうか？登場人形が狐、狸、リス等のような小動物の場合には、動物園で、その生態を見てそれを基にして、劇になる動きを考えます。檻の前でいろいろな形をしていると、子供達が「あいつ、アホとチャウカ？」などといっています。

年頃の若い人達が集っていますので、劇団員間の結婚があります。また、サークル以外の人との結婚もあります。ご当人には、おめでたいのですが、残った者は、とても淋しいことです。でも、また、いろいろな人達が参加してくれますので、いつものように、蜂の巣をつついたような騒しい練習を開始します。人形とたわむれていては、劇になりません。演出を担当した者は、恨まれようが、どうしようが、びしびし。出演する者は、フウフウいいながらシゴカれています。

阪神間には学生さんのクラブ活動による人形劇サークルはたくさんありますが、私達のような地域のサークルも三つ、四つあり、若い方も年配の方も活発に活動しています。だれにでも、どこでも、いつでも出来る人形劇です。もともと人形劇にたずさわる人達が増えればいいな、と思います。

□連絡先／芦屋市三条南町五の二 寺中方



阪神電鉄グループ

神戸タワーサイトホテル

5階 レストラン

“エメラルド”

ぐ〜んとスペースがひろがり
海と山の眺めが一層すばらし
くなりました

新しくステーキ
コーナーも誕生

スペシャル

ブランドステーキ(お二人前)… ¥3,500

ステーキ ディナー …… ¥2,500

ビーフ フォンデュール …… ¥2,000

営業時間 A M7:30—P M10:00

神戸市生田区波止場町1番地(中突堤)

T E L 神戸 (078) 351-2151(大代表)

□れんさい随想 Ⅲ

青い町

楠本 憲吉

え・南 和好

神戸坂がち 白いネックの神父に逢い

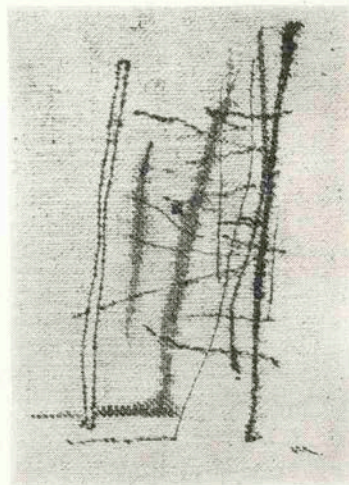
憲吉

青い海の見える町、青い山を背負った町、青い並木のそよぐ町、神戸は、まさに「青い町」、青春の町、私の青春がそこにいまも息づいている町だといえよう。

神戸はよく横浜と比較されるが、私は、神戸はヨーロッパ、横浜はアメリカ、そんな違いがあるような気がしないでもない。

そういった神戸と横浜の違いは、この二つの町に住んだ外人の種類の相違であろうか。政治的な用務で日本に住んだ外人の多い横浜に対して、人々と直接のかかわりあいを持った商目的の外人の多い神戸、このことが案外、両市の性格に何らかの影響力を持ったような気もする。

はじめて、ひとりで洋画——フランス映画「歴



史は夜作られる」を見たのも神戸三宮劇場であった。中学二年のときで、当時、中学生は父兄のつきそいなしに観劇観映は許されず、補導連盟（通称ホーレン）というこわいおっさんの監視下にあったのである。

はじめてバーへ行ったのも山手の加納町のバーであった。当時のバーはママもホステスも学生を実に大切にしてくれた。料金は学割だし、こまごまと身辺の面倒まで見てくれた。私が学徒動員で入隊したとき、最初にモンペ姿で面会にやってきたのは、そのバーの女の子たちであった。もっともあとで女の子たちの素性がバレて、面会が終わってから古年次兵からすごく気合をかけられたが……。

入隊中も、外出があると神戸の町へ出かけた。トリアロード、三の宮界隈、元町通り、新聞地と、あてもなく歩いた。

終戦になって、復員して、真先に神戸へ行った。まだ長靴をはき、戦斗帽に将校服のままであった。

三宮駅をおりると、開市からムツとする食料油の匂いがハナをついた。駅の階段をおりると、浮浪児が二人寄って来て、長靴を磨かせてくれといってケンカを始めた。客の争奪戦である。すると愚連隊のアンチャンが出てきて、

「兄さん、こんな小さい子ケンカして、それでええんか」

といってゆすられたりした。

芦屋に住むギターラという外国人と仲よくしていたことがあった。何かのつき合いで顔を出したレコードコンサートで知り合った男で、私より少々年上だった。その男から、逃げた奥さんを迎えに宝殿まで行くのだから来てくれぬかと頼まれた。宝殿は山陽本線の小駅で、姫路の少し手前「石の宝殿」といわれる石材の産地である。

秋雨の降る日であった。空襲で焼けたホームの屋根の雨洩りが激しかった。来る列車も来る列車も復員兵と買出し部隊で超満員、とても乗れるものではなかった。ぼんやりホームから再度山の方を眺めていると、薄桃色に煙が立ちはじめた。六甲名物の山火事である。

やっと乗った列車で石の宝殿へ行き、バスで何駅か乗って、奥さんの実家へ行ったが、両親が出てきてケンもほろろに面会を断わった。激しいことばづかいであった――。

サデリンという外国人がいた。もとトルコのレスラーだったが、GHQ物資の闇屋をやっていた人づてに彼と知り合って、私はサデリンから洋モクやカンヅメ、ウイスキー、洋服生地をわけて

貰って、それを売り歩き、小づかいにしていた。

ある晩、サデリンと、バクダンというひどい焼酎を痛飲し、終電車に乗りおくれ、山手のサデリンの家に泊った。応接間のソファアに寝かされたが、夜中に目を覚ますと何かナマあたたかいものが私のそばに寝ている。手を伸ばすとざらりと粗い毛の感触があった。私がぎょっとして体を起すと、それはウーッと唸るではないか。サデリンの飼っていたシェパードであった。不意の闇入者に自分の褥を奪われて、仕方なく私に添寝をしていたのである。

神戸へ行けば、そんなとりとめもない思い出か、次々に鮮やかによみがえってくる。

さて、今年も押しつまり、師走の月がやってきた。

「師走」は僧侶のことで、年来の仏事に、あっちこっちで僧を迎えたがるので、僧はあっちこちへ走り廻るところから出たもの。

今年のクリスマスは私は神戸で迎えることになっている。神戸在住の俳人諸卿と、神戸らしいクリスマス句会をやるうではないかということ招待を受けている次第――。

私はその日の来るのが今から楽しみでならない

天にオリオン 地には我等の足音のみ



□ずいそう

アンナの街

依田 義賢

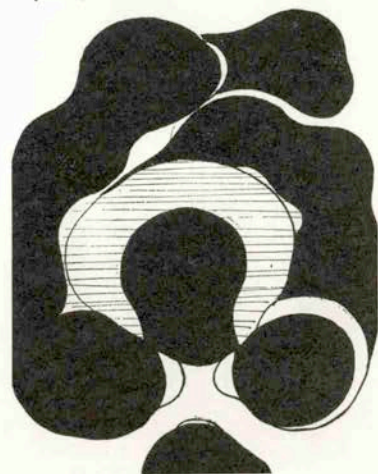
え・鄭 相和

アンナの街に、雪は降っているだろうか。アンナの街の広場に、椿の花は咲いただろうか。

人を愛することしか知らない、やさしい善良な姉は、晩年に、息子のすすめるままに、カトリックの信者になって、永い間、脳軟化症で、病臥していたが、やさしい息子たちの夫婦の看護をうけて、死んだ。寒い冬の、芦屋川畔の教会で、寒い風の強い日に、葬儀があげられた。

姉は小さい時から、神戸の、祖父の家にやられて育ち、琴が上手であった。その琴を、生田町の外人もインド人の奥さんも、ほめてくれたのが、自慢だった。姉は貿易商につとめる、人の後妻に嫁いだ。賢い先妻の男の子を姉はわが子のように、愛した。わが子も出来た。恐しい、出水が、六甲山から、くだりおちる時、本山の留守宅は濁

アンナの街



流の渦に、二階の屋根だけになってとりかこまれ、煙突にすがって、助かったこともあった。

先妻のいい子は、学校を出て、勤めるようになると、戦争に行つて死んだ。それで夫はぐつと老けて、いく年もたたぬ間に死んだ。それから後家の苦労が続いたが、姉は善良に、にこにこして、苦労にたえた。司教は、アンナの経歴をのべ、聖歌隊の歌声と、蠟燭の灯のきらめきの中で、アンナの棺は花にうずめられ、それから、風の強い山上の火葬所で、焼かれた。なんの鳥かしらないが、しきりに、鋭い声をあげて、啼いていた。

三回忌に、墓をつくつたので、納骨することになり、私夫婦と兄が京都から来た。教会で、納骨式をあげ、縁者一同が墓地に向つた。

墓地は、神戸の町のはずれのいい所だというだ

けで、なにも知らされなかった。地下鉄の工事や、海中の埋立アイランドの工事や、さかんな事業がすすめられていた神戸である。その町のはずれまで来て、鶴越の墓園とあったか、霊園とあったかそんな角柱を見なければ、自動車はそれから、眺望の美しい、山地の舗装道路をのぼって行くと、私は、墓地へゆくとはいえなかった。高原の温泉地へでも、遊樂にゆくドライブのように思えた。のぼるにつれて、神戸の港が見えた。外国船がならんでいた。それから、ビルの並ぶ街も、見下ろされた。ずいぶん山地をのぼり、奥深くすすんだと思う頃に、一群の墓の一郭が望まれたが、そこは一区域だけで、またその奥の、小高みに、さらにまた、次の谷あいには、また丘に、という風に、広い、国道に沿って、次々と開発された団地のように、墓の街があった。

私たちの自動車が入った、その一席は椿の園と名づけてあったように思う。他にも、そのように、山茶花や桜や梅の園などがあったのだろう。そこへゆけば、その園の名の花だけが植えられることになるのだという。そうして、その親のような大木の植えられたところは、この墓園の人口近い広場であるようだった。神戸市が整地して市内の寺々から、ここに墓を移して、いくばくもないということであった。

墓碑の間をゆくと、それはさながら、すばらしい開発の進んだ、ビルの街であった。ただその街のビルには、窓がなかった。そして生きているものは、花と虫だけであった。寒い風が通りぬけ、人影はなかった。そこに、洋風のアンナの墓碑は横たわっていた。いちばん苦勞だった戦後、よく

流行った、「港の見える丘」という歌をうたって泣くことを忘れていたアンナには、ふさわしい、丘の墓の街のようであった。

この街は、外人墓地のように、みんな同じ、造型で、ファンタジックな歌のある豊かな感じはなく、仏教と混合で、不揃いでもまだ、死んでも、世帯の苦勞の堪えないような、冷たく乾いた、味気ない、花やみどりの少い都会であった。

ああ、アンナ、あなたは、こんなところでも、ごくたのしく、人よく眠っていることだろうな。個性的なものが、地に花のように満ちにくいこの港街、土が流れて白い砂だけがのこり、花が金属や造花になってしまふこの港街、モダンな外国製のものが蕭洒な装飾になって貼りつけられたり、かかげられたり、塗られたり彩られたりする、インターナショナルな流行のディスプレイの街。

海はあるけれども、なぜか遠いその丘に、白い夏の、書籍の陳列棚のような街があることを、友よ、知っているだろうか。

ああ、アンナの街に、椿の花よ、早くおいしげり、咲きみちてくれ。青い海だけでは、あまりに寒い。それまでに、年月がかかるとなれば、冬には、しきりに雪が降りつもってくれ。窓のない、石のビルの街には、まっ白い雪でも、物語のように、あたたかい。アンナの街に、雪よ、降れ、雪よ、降り積み。

〈大阪芸大教授〉



□ずいそう

神戸の

ハイカラさ

マダム、マサコ

え・鄭 相和

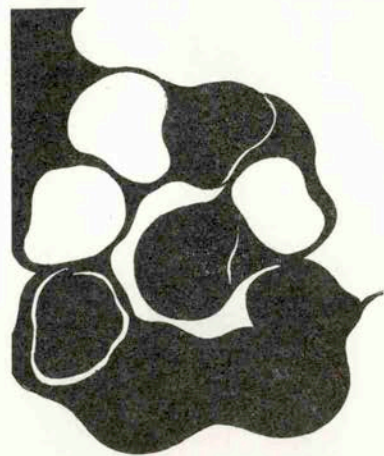
戦後、二年目くらいに、神戸をちょっと通過した時のことです。

元町を歩いてみて、がらんとした、まるで空き家のようなところになっていたのにはびっくりしてしまいました。

その次、神戸へ、また、ちょっと寄ったのが昨年で、この間がバカに永すぎて、いったいどうしていたのかなと、今も、思っています。すっかり、きれいな元町になっていました。

それにしても、ほんとに人が増えましたね神戸も。

これは、日本国中、どここの街へ行っても感じることで、ここだけのことではないのですが、三宮あたりの混雑は、やはり、大へんなものだと思います。



71. 昭和42年

ました。

元町も、きれいにはなったけれど、何か昔とすこしちがった感じの街になりましたね。

それが何であるかは、もつとも、じっくりと落ちついてから考えたい、というのは、近々そちらへ引っ越そうと思っているからなのです。

私の知っているのは、思い出の中の神戸です。

レインクロフォードは今でもあるのでしょうか、ヤタナカオとか、サノヘで買いましたね。

ハイウエイで、小えびのカクテルとか、シャ

トーブリアンなどをたべたり、ユーハイムでは、

バームクーヘンを斜めうす切りにして、クリーム

を目の前でかけてくれましたね。

あれは、切り口が乾いていちゃ駄目ですからね
夕方なんか、世界各国の人たちが、ゆったりし
た足どりで散歩していました。

何しろ、三十年もたつてしまったので、私の方
の感じ方も、すこし違ってきたかもしれません
「これ、神戸で買ったのよ」

「アラ、これ、すてきね」

「神戸よ」

と、こういった時には、ほんとに、そこには神
戸の匂いがありました。

大阪にも、東京にもない、それは「ハイカラ
さ」という匂いでした。

つまり、神戸とは、そういうところだったので
す。

神戸は、貿易港だから、何でも、新しいもの
が、いの一番に入ってくるからでしょうか。新し
いもの、流行の魁、モダンなもの、というだけ
なら、東京にも大阪にも、大いにありますよ。

京都のような古めかしいところにさえ、一部に
は非常にモダンな面もみられるのです。

しかし、何か「ちょっと、ハイカラなものを買
いたい」といって、京都へ出かける人があるでし
ょうか。

とすると、ハイカラとは、決して、新しいも
の、最近流行のもの、というのではなさそうです
では、いったい何なのでしょう。

「これがハイカラです」とは、今ここで一口に
は説明しにくいのですが、しかし、皆さんも、よ
く「これ、ハイカラね」とか「この色、きれいだ
けど、ハイカラさのない色ね」などと、日常語と
して使っていらっしやるところをみると、ちゃん

と解っていただけるのです。

実に、はつきりといい切ることができるくらい
みんなによく理解できていることなのです。

神戸のハイカラさは、その伝統からきていると
思います。

明治の開港以来、居留地の異国人たちの生活か
ら、しらすしらすのうちに学び、同化してしまっ
たハイカラさ。

それが、他には真似のできない神戸の特質であ
り、個性となつてしまっているのでしょうか。

ハイカラなどというものは、今日や昨日、でき
た新興都市に存在する筈のないものということが
できます。

「江戸好み」といえば粹なこと。

「巴里風」といえば、その精神はシックです。
みな、永いながい伝統の上に育ってきた人々の
心意気のようなものであつて、そして、それはわ
れわれの郷愁にもつながっています。

着るものであれ、家具であれ、神戸の作品は、
この舶来ものの伝統を基礎にしたオリジナルでな
ければ、

「これ神戸よ」

と自慢しにくいのです。

ほんとに今は、どこにでも、何でもありますか
らね。

これからの、落ちつきをとり戻した神戸をたの
しみにしていますわ。



Happy Wedding

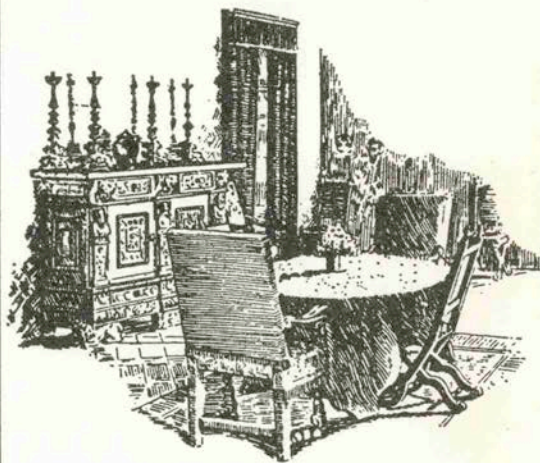


北欧の銘菓

ユーハイム・コンフェクト

■本 社・工 場 神戸市東灘区熊内町1 (市立美術館東隣) TEL 221-1164
 ■三宮センター店 神戸三宮センター街(洋菓子・喫茶・レストラン) TEL 331-2421
 ■さん ち か 店 神戸三宮地下街スイーツタウン TEL 391-3558

家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

神戸市生田区三宮町3丁目大丸前 TEL 神戸神戸(391)3737
 (代表)

東京店・東急百貨店 { 日本橋店内6階 TEL 03(221)0511
 { 本店(渋谷)7階 TEL 03(462)3180
 工場 神戸市垂水区多聞町小東山975-35
 神戸木工センター TEL (078) 706-5005 (代)

経済と文化の調和を

榎並 正一 〈バンドー化学取締役社長〉

南部 圭三 〈光印刷製取締役社長〉

南部 昨年、「阪東調帯」という難しい名前から「バンドー化学」というわかりやすく具体的な名前に変えられたわけですが、名前を変えられてこういう点がよかった

ということがございましたか。

榎並 私のところは調帯も大いにやってるんですが、最近それ以外の物が増えてきましたので、それを社会的に



榎並 正一氏

も認識してもらいたいというわけです。

バンドーというのは65年前に阪東直三郎という方の、技術を基盤にしてできた会社です。その阪東さんは自分で造られたベルトの事故でなくなりました。殉職されたわけです。そういうような因縁を我々もっていますので「バンドー」というのは単なる人名じゃなくて、技術というもののシンボライズしたもので、社名にもバンドーというのは抜かさないようにしているわけです。

南部 そうしますと、阪東さんが最初に調帯を開発されて、しだいに発展していったんですね。

榎並 そうです。それで調帯という言葉は現在では現実性が欠けているのですが、私としては長い間の郷愁もありますのではすすのに苦勞しました（笑）ところで光印刷さんの方はいかがですか。

南部 私の方の会社は、最初昭和23年に神戸に創立しまして、昭和32年東京に進出、本社を現在の西宮に移したのが39年です。仕事の内容は美術印刷、特殊印刷、それにパッケージ関係が多いのですが、最近ではコンピュータシステムによる写真製版にも力を入れています。私は常々うちの社員に「ヒューマン・プリンティング」ということをいってゐるんです。すなわち「印刷物に生命を与える」ということですが、これは大変大切なことでうちの経営理念でもあるわけです。

★ハプニングの多かった一九七一年

南部 71年はいろいろな問題がでてきて大変な年でしたね。

榎並 しかしそういった問題というのは、急に今年になって出てきたわけじゃなくて、みんな以前からあったものを形の上で文句をつけて、いろいろといいはじめたのが71年だったというわけです。しかしいろいろとございましたね（笑）

南部 明日は何が起るか分からないといった、ハプニン

グなことが多かったですね。

榎並 なくなった河野一郎さんがおっしゃってたが、どんな時でも、どの時代の人でも、自分の今の時代が一番難しい時代だと思ふそうです（笑）あんなこともある、こんなこともあると思つてボヤいているが、いつの時代でもそうなんであつて、逆にいえば皆がそれだけいろんな問題に関心をもっているというとはいいいいことなんですね、俺だけが天下の不幸を一人でしょったみたいな顔するな、ということですよ（笑）

南部 そういう点からいえば、71年にいろんな問題が出たということは、みんながそれに関心をもったという点で出ないよりはよかつたわけですね。

榎並 そうですね。みんなが関心をもつて、その解決のスタートを切つたということではよかつたといえる。

そのきつかけをつくつたという点で、ニクソンさんに礼状出したらどうですかね（笑）ただこれを解決するのは大変でしょうが（笑）終局の一手手前になって気がつくよりは、早目に気づいて手を打つておいた方がいい。だから71年は決して悪い年だったと私は思いませんね。

南部 山積みする問題を一つ一つ解決していくのは確かにしんどいことですが、今までが余りにも安閑としすぎましたからね。

榎並 元禄ボケしてたんですよ（笑）

南部 今までのままではこらあかんぞ、ということではない刺激にはなつたでしょう。やはりそういうことは必要なことですね。そういう問題がなければ、そんなもんだということなんです。いくわけなんです。

榎並 だから、スタートという意味からいって、これにおびえず、いやがらず、すなおに受けてそれに対処して前進することです。

★経済と文化の調和の時代へ

榎並 今、ヨーロッパから帰ってきたばかりの証券会社



三井圭氏 南部

三つ、四つ、五つにもなってくると手におえなくなってくる。ごはんにとえると、一杯、二杯、三杯ぐらいまではおいしく食べられるが、五杯、十杯となってくると食べる方も困ってくる。企業の方も「自分の使命は作ることにあり」というんで、つくることにだけに専念してきた。それが今度はそれが、どんな結果を及ぼすかという問題にもなってきたわけです。ある面では公害の問題にもなり、またある一面では、そのエネルギーをもっと違った形で有効に使おうということでも文化の意味にもなってくるんじゃないですか。もともとはそれが本来の姿ですからね。ただそれが一時的に物質優先ということでも本末顛倒してたんですよ。だからやっと本来の姿にもどろうとしておるわけじゃないですか。

のある人の話を聞いてきたんですが、その人の話によると、向うの人は「メーカー株はもう買わない」といつているらしいんです(笑)

南部 それは公害の問題などですか。

榎並 それもあるかもしれませんが、物もだいぶ豊かになつて余つてきているので、この辺で物を作るだけじゃなくて物の使い方をもちと考える、ということじゃないですか。人間らしい使い方をしろということだと思います。

事実、今まで公害関係にしても後のことを考えないで供給サイドのことばかり考えてたでしょう。作る方だけじゃなくて、使う方もそれだけしか考えてなかった。そのへんのひずみがでてきているともいえますね。

南部 結局、人間が物をつくって、その作った物の処理で困っているわけですね。

榎並 戦後の物のない時代には、作ることをだけ考えて、がむしやらに作つておればよかったし、使う方も一つや二つだったらちょうど使いやすかった。しかし、それが

南部 人によつて、こういう分け方をされる方があります。つまり、人類の歴史を、文化以前と文化時代と文化以後とに分ける。現在は文化時代と文化以後の分れめに当るわけで、「文化以前」というのは人間が狩猟をして暮らしていた時代ですが、「文化時代」に入ると人間は物をつくる事をおぼえたわけです。そして物を一生懸命つくって、人間らしい生活ができるようにだんだんなつてきた。ところが今は作つた物で苦勞する時代で、それが「文化以後」というわけですね。

文明オンリーという時代から次のスペクトルに入つてきた。ですから、いろいろな意味であの万博というのが一つの転機になったようですね。

榎並 見本市なら一種の物質文明だけの展示会ですが、万博は世界の文化を集めてのフェスティバルだったからこそ、あれだけの人も集つたのでしょう。経済的なものはどこにでもついてまわりますが、それだけじゃなく文化というものをもっと考えなあかんぞ、ということでは

やはり万博は一つの転機でしたね。経済と文化の調和ということ、本来の姿にもどったわけですね。

南部 「人類の進歩と調和」というのもそういう意味でしょう。

榎並 そうですね。「調和」ということになる、少くとも複数の物がなくてはいけませんから。今までは物質的なものに片よりすぎていて、もう一方を考えなさざった。

南部 またしかし、考えてみればそこまでの余裕がなかったということもいえますね。多少物質的にも豊かになって、初めて足元をみたらどうもこれは具合が悪いし実際に一番大きな問題としてとりあげられるようになった。

榎並 ことにそれが人間の健康とか生命にかかわるようになってきたので、「公害」という形で問題になった。しかし「公害」という言葉は世界中になくて「水の害」とか「空気による害」とか、そういう言葉はあるけれどもどれもこれもひっくりかえってという言葉はないそうです(笑)

南部 「公害対策」といっても内容によってみな違いますからね。

榎並 公害といっても、ある量が少い時は、同じ物があってもむしろ重宝がられたわけですね。ヘドロしかりであって、酒屋さんに聞きましたが、米の白い洗い水が少し流れてた頃は魚が寄ってきて喜びばれた。先程のめしの話と同じで、それが十倍、二十倍にもなってくると「公害」ということで問題になってくる。ほどほどというのを越えるからいかんのとちがいますか(笑)

★神戸の特殊性を生かした発展を

榎並 神戸の特長の一つは、もともと港街であったこともあるんでしようが、外部の人とのつながりが多く、人の往来も多かった。国籍でいったら神戸が日本で一番多いでしょう。外国の人たちでも自然にとけこめる土地柄

なんです。そういう「受け入れやすさ」という神戸の特長を上手に生かした形の発展というものが期待されますでしょう。土地は狭いし、経済力は弱い。物質面からいえばあまりいいところないので、一時浅田さんの時代にいわれた「学術都市」というイメージも生まれてくる。神戸人はがめつくさないから、金もうけもへただし、また金を使わせるということも上手でない。

南部 別に経済的にリーダーになる必要もないです。人口の増減でその都市の斜陽化をうんぬんいう人もありますが、そうじゃなくてむしろ人口はそんなに増やさなくて都市の発展を考える方がいい。

榎並 形の問題じゃなくて住みやすさですよ。花や緑だということもいいが、それだけじゃなくて、幸い神戸は気候もいいから、そこにみんなが快適に住めるようにするにはどうすればいいかをずっと考えてみたい。大型都市の悪いところばかりを見習うようなことはしないで、中型都市としての充実性と、それもデコデコのものじゃなくて神戸らしいものをね。

南部 やはり神戸の人が求めているのはそういう事じゃないですか。

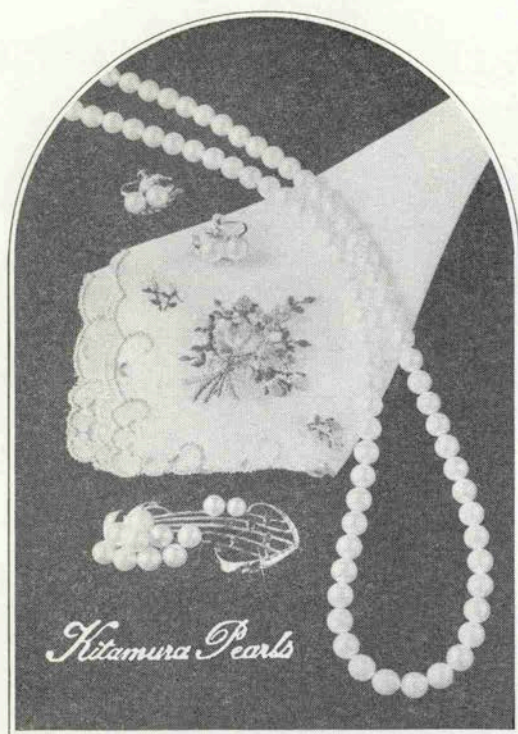
榎並 それ以外に道はないでしょう。

南部 この前も不動産屋が、工場はもう全然ダメです。よっていつてました(笑)

榎並 だから、我々もいかにしてここから出ていくかの問題ですよ。今の工場街が、今いった神戸の特長をもった何かの形に変わっていくことを、我々のような工場人身を含めてみなそう思っているんじゃないですか。

南部 将来は次第にそういう方向に変わっていくでしょうね。

榎並 橋をつくったり、道路をつくったり、物質的なものは一番変えやすいですが、人間的な、自然的な特長というものとはそう変えるものじゃない。いい意味でも悪い意味でもそれは変わりにくいものですから、その特長を大切に生かした方向での神戸の発展を考えたいものです。



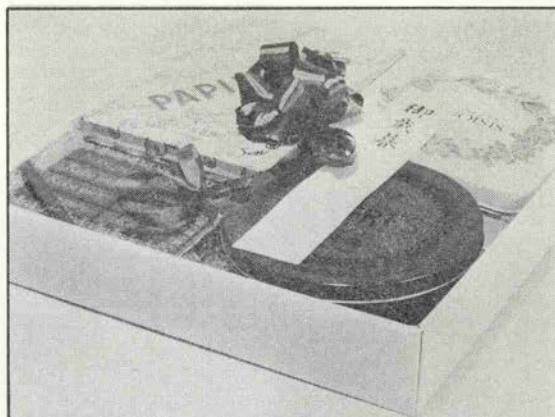
ハンカチーフ/シャス

イブの夜に、よりエレガントな北村パール



北村真珠店

元町通2丁目60 TEL. 331-0072



お歳暮

ご贈答好適品

ゴルフ

¥400～3,000 ¥100～300

マロングラッセ

¥600～5,000

銘菓詰合せセット

¥1,000～5,000

神戸にそだって70年

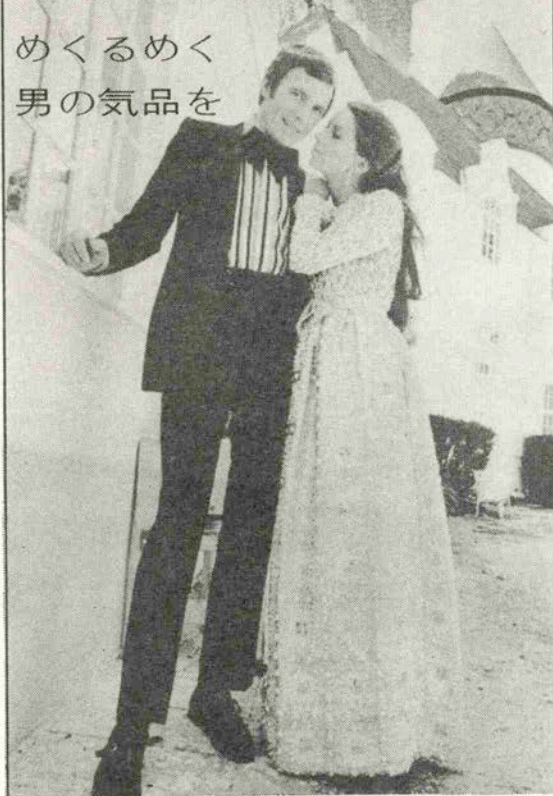
 風月堂

元町3丁目 TEL391-2412～5

さんちかスイーツタウンTEL391-3455

MERRY CHRISTMAS

めくるめく
男の気品を



O-SHIBATA

柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 神戸341-0693
大阪・高麗橋2丁目 大阪231-2106

メリー
クリスマス



●クリスマスデコレーションケーキ
予約受承ります



北欧の銘菓

ユーハイム・コンフェクト

■本 社・工 場 神戸市東灘区熊内町1 (市立美術館東隣) TEL 221-1164
■三宮センター店 神戸三宮センター街 (洋菓子・喫茶・レストラン) TEL 331-2421
■さん ち か 店 神戸三宮地下街スイーツタウン TEL 391-3558